

異常高温を意識した栽培管理の徹底を！

- 今年 は 平年 よりも 草丈 が やや 高く、 茎数 も 多い 傾向 です。
- 基肥一発体系でも夏季の高温に備え、耐暑肥を施用しましょう。
- 出穂前後各3週間は常時湛水管理を行いましょ。
- 最新の防除情報等を参考に適切な病害虫防除を実施しましょ。

1 収量・品質向上のため基肥一発体系でも耐暑肥を施用しましょ

判断基準（「コシヒカリ」60株/坪植えの場合）

- ・出穂11日前頃までの葉色が淡い（葉色板4（SPAD値で36）以下）
- ・幼穂形成期の茎数が多い（25本/株以上）

施用時期	出穂11日前～4日前	施用量	窒素成分2kg/10a
------	------------	-----	-------------

- ※ 環境こだわり農産物では合計化学肥料窒素成分4kg/10a以内を順守してください。
- ※ 施用時期が遅れると食味が低下するため注意しましょ。
- ※ いもち病や倒伏の発生が懸念されるほ場での施用は控えてください。

2 適正な水管理を実践しましょ

- ・出穂前後各3週間は3～5cmの浅水での常時湛水管理を行いましょ。
- ・常時湛水管理は白未熟粒や胴割粒の防止、カドミウム吸収抑制に有効です。
- ・すでに梅雨明けとなっていることから、必要以上の取水にならないよう、適切な用水利用に努めましょ。

3 斑点米カメムシ類の発生に注意しましょ

- ・今年の発生量は平年よりやや多いと予想されています。（7月7日発表病害虫発生予報第6号）。
- ・畦畔2回草刈りと薬剤防除を実施し、斑点米の発生を防ぎましょ。
- ・カメムシの種類や使用する薬剤によって散布適期が異なるため、注意が必要です。



熱中症にご注意ください！！

予防のポイント

- ①暑い時間帯の作業を避ける
- ②こまめな休憩と水分補給
- ③単独作業を避ける
- ④熱中症対策アイテムの活用